

少納言補任稿：仁和三年以前

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 笠井, 純一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/960

少納言補任稿

——仁和三年以前——

笠井純一

はじめに

律令官制における少納言の位置づけには、重要かつ微妙なものがある。『養老職員令』に、

少納言三人。掌奏宣小事。請進鈴印傳符。進付飛驒函鈴。兼監官印。其少納言。在侍從員内。⁽¹⁾

と見えるように、少納言は太政官の一員として大少外記を率い、官印押捺を掌る一方、中務省侍從を兼帯して天皇の側近に仕え、内印「天皇御璽」をも監する立場にあつて、太政官と天皇の結節点に置かれていた。定員は三員であるが、奈良末平安初期には員外官や権官が置かれ、また平城朝末年から弘仁初年までは正官一人が増員されるなど、特に重視される実務官僚であつたらしい。藏人所が設置されてその職務の大部分が藏人に移行した後も、藤原基経はじめ少納言経験者で高官に登つたものが少なくない。

したがって少納言任官者の目録である『少納言補任』は、公卿や

弁官の補任とならんで政務・人事の重要資料であつたらしく、平安末期の『通憲入道藏書目録』には『公卿補任』に次いで、

少納言補任。一帖。不見。⁽²⁾

と記され、鎌倉後期の成立といわれる『本朝書籍目録』にも、その書名が掲げられている。⁽⁴⁾しかしこの書は現存せず、今日内閣文庫に蔵される『少納言補任』は、近世前期の公卿であつた平(平松)時量(一六二七—一七〇四)が、奈良時代初期から東山天皇時代までの任官者を調査し、書き上げた後撰の一冊である。⁽⁵⁾この書は江戸期の著作としては優れたもので、『六國史』『公卿補任』をはじめ、当時入手可能であつた諸史料から任官者を摘記しているが、このころ平安初期の基本史料である『日本後紀』が散逸し、逸文蒐集も未完成であつた状況を反映して、平安初期の少納言については殆ど載録がなく、⁽⁶⁾また補任を天皇毎に一括して年次別に記載せぬこと、⁽⁷⁾出典を明記せぬことなど、今日から見れば問題も少なくない。

筆者は、平安初期の皇権と官制について考察を進める中で、平城

朝における官司整理の意義について、これを単なる行政改革ではなく、皇権を中心とする官制再編の志向と考えるに至った。本稿は右の作業途上で作成した私的かつ不完全なノートに過ぎないが、ここに公表して諸賢の御指摘を俟ち、より正確なものにして行きたいと考えている。御批正を賜れば幸いである。

註

- (1) 『令義解』職員令太政官条(『國史大系』本三一頁)。
 (2) 『日本後紀』大同三年八月庚戌朔条に「加太政官少納言一員」とある一方、同四年二月己巳条にも「加少納言一員。中監物二員。少監物二員。」と見え、大同年間の少納言増員は二度あったかのようである。しかし『類聚國史』弘仁四年十月甲辰条によれば、「公卿奏。據職員令。少納言三員。中監物四員。少監物四員。而大同年中。量事繁劇。令員之□□更加少納言一員。(中略)伏望省減後加。一依令條。許之。」とあって、平城朝の増員は一員のみであったらしい。『後紀』中いずれかの記事が誤りということになるが、それにしても三年八月条の「太政官少納言」という表現は聊か不自然で気がかりである。
 (3) 『群書類從』第二十八輯(雑部)一九六頁。
 (4) 和田英松著『本朝書籍目録考證』五三二頁。
 (5) 函号一四七―七九。なお本書には宝曆十二年(一七六二)右大弁菅原在家、天保二年(一八三二)少納言兼侍從平信好の奥書がある。
 (6) 『日本後紀』は恐らく応仁・文明の大乱に散逸し、近世前期にはその存在すら確認されなかった。鴨祐之の『日本逸史』が版行されたのが享保九年(一七二四)、『後紀』零本十巻が上梓されたのは十九世紀初頭である。拙稿「日本後紀逸文索引稿」(1)、『金沢大学教養部論集』二〇〇、参照。
 (7) 内閣文庫本『少納言補任』においては、平城朝の少納言は一人も載録されず、

嵯峨朝は「橘常主・高階古川」の二名、淳和朝は「豊江王」一名のみである。但し同書は、桓武朝の少納言「稱城王」を載録しており、この人名は『類聚國史』卷二五・三六の延暦十九年七月条に見えるから、時量は同書を見たに相違ない。しかし卷三、天長元年四月乙酉条の「繼野王」は採られておらず、彼の閲覧した『類聚國史』は現今のそれより不完全なものであった可能性がある。

凡 例

一 本稿は大寶以前から仁和三年(八八七)に至る少納言任官者を諸史料から検出し、年次をおって排列したものである。
 一 各年次ごとに、上段に検出された官人の帯位・氏名を掲げ、下段にはそれぞれの出典・所在およびその記事の一部を付した。
 一 員外少納言には△印、権少納言は▲印、判少納言は▼印を、氏名の上に付した。
 一 出典・所在は「」の中に示した。頻出する出典は左のように略記した。

〔續紀〕	……………	『續日本紀』
〔後紀〕	……………	『日本後紀』
〔續後紀〕	……………	『續日本後紀』
〔文實〕	……………	『日本文徳天皇實録』
〔三實〕	……………	『日本三代實録』
〔萬葉〕	……………	『萬葉集』
〔補任〕	……………	『公卿補任』
〔類史〕	……………	『類聚國史』
〔符宣抄〕	……………	『類聚符宣抄』

- 一 出典記事のテキストは、『六國史』『類聚國史』『類聚符宣抄』『公卿補任』については新訂増補國史大系本を、『萬葉集』は日本古典文学大系本を、『東大寺要録』は筒井英俊氏校訂本を、『威名眞人大村墓誌』は『古京遺文』を、『官曹事類逸文』は『國書逸文』所収のものを、『外記補任』は拙稿「校註・外記補任」(1)〔金沢大学教養部論集〕二六―二七を用いた。
- 一 特に註記を要するものは、◎で示した。
- 一 その他、適宜類推されたい。

◆天武・持統朝

小花下 石川安麻呂

〔續紀、天平元年八月丁卯09条〕左大辨從三位石川朝臣石足麿。淡海朝大臣大紫連子之孫。少納言小花下安麻呂之子也。

〔補任、天平元年石川石足袖書〕近江朝右大臣大紫冠蘇我連子孫。中(少イ)納言小花下安麿之子。

◎安麻呂の帯びる「小花下」は、大化五年以降、天智三年以前に用いられた冠位である。しかし

「納言」は天武朝の設置、「小納言」は淨御原令制下の官職と考えられるから、便宜上ここに掲げた。

◆文武朝

直廣肆 威奈大村

〔威奈眞人大村墓誌〕小納言正五位下威奈卿墓誌銘。并序。……藤原聖朝小納言闕。於是高門貴胄。各望備員。天皇特擢卿。除小納言。授勳廣肆。居無幾。進位直廣肆。以大寶元年。律令初定。更授從五位下。仍兼侍從。……慶雲四年歲在丁未四月廿四日寢疾終於越城。時年卅六。

◆養老二年

正五位下 小野馬養

〔續紀〕三月乙卯20。以少納言正五位下小野朝臣馬養。爲遣新羅大使。

◇養老五年

正五位上 紀 男人

〔官曹事類逸文〕官曹事類云。右符案云。養老五年九月十一日、天皇御内安殿、以少納言正五位上紀

朝臣男人爲舍人。

◆天平元年

外從五位下 巨勢宿奈麻呂

〔續紀〕二月壬申11。遣……少納言外從五位下巨勢朝臣宿奈麻呂等。就長屋王宅窮問其罪。

◇天平五年

從五位上 縣犬養石次

〔續紀〕十二月庚申27。以從五位上縣犬養宿禰石次爲少納言。

〔補任、天平十二年尻付〕（養老）五年六月辛巳任中

衛士佐。從五上。天平四年九月乙巳右少辨。五年十二月庚申任少納言。

◇天平十年

從五位下 阿倍沙彌麻呂

〔續紀〕閏七月癸卯07。以從五位下阿倍朝臣沙彌麻呂爲少納言。

〔補任、天平勝寶九歲尻付〕天平九年九月日叙從五位下。十年七月日任少納言。

◇天平十二年

從五位下 大井王

〔續紀〕十二月戊戌03。遣少納言從五位下大井王。并中臣忌部等奉幣於大神宮。車駕停御關宮十箇日。

◇天平十五年

從五位下 當麻鏡麻呂

〔續紀〕六月丁酉30。從五位下當麻真人鏡麻呂爲少納言。

◇天平十六年

從五位上 茨田王

〔續紀〕二月乙未朔。遣少納言從五位上茨田王于恭仁宮。取驛鈴内外印。又追諸司及朝集使等於難波宮。

◇天平十八年

從五位下 紀 廣名

〔續紀〕九月戊辰19。以從五位下紀朝臣廣名爲少納言。

◇天平十九年

從五位下 石川名人

〔續紀〕五月丙子朔。從五位下石川朝臣名人爲少納言。

從五位下 縣犬養古麻呂

〔續紀〕九月丙申23。以從五位下縣犬養宿禰古麻呂爲少納言。

從五位下 大伴犬養

〔續紀〕十二月乙巳04。以從五位下大伴宿禰犬養爲少納言。

◆天平勝寶元年

從五位下 大原麻呂

〔續紀〕八月辛未10。以從五位下大原真人麻呂。……並爲少納言。

從五位下 石川豐人

〔續紀〕八月辛未10。……（從五位下）石川朝臣豐人。並爲少納言。

◇天平勝寶三年

從五位上 大伴家持

〔萬葉、卷十九 四二四八詞書〕以七月十七日遷任少納言。仍作悲別之歌。贈貽朝集使掾久米朝臣廣繩之館一首。

〔萬葉、卷十九 四二五六詞書／左註〕十月廿二日、於左大辨紀飯麿朝臣家宴歌三首／右一首、少納言大伴宿禰家持當時囑梨黃葉作此歌也。

◇天平勝寶四年

從五位上 大伴家持

〔萬葉、卷十九 四二七二詞書／左註〕十一月八日、在於左大臣橘朝臣宅肆宴歌四首／右一首、少納言大伴宿禰家持。未奏。

〔萬葉、卷十九 四二七八詞書／左註〕廿五日、新嘗會肆宴應詔歌六首／右一首、少納言大伴宿禰家持。

◇天平勝寶五年

從五位上 大伴家持

〔萬葉、卷廿 四二九四左註〕右、天平勝寶五年五月、在於大納言藤原朝臣之家時、依奏事而請問之間、少主鈴山田史土麿、語少納言大伴宿禰家持曰、昔聞此言即誦此歌也。

〔萬葉、卷廿 四二九七詞書／左註〕天平勝寶五年八月十二日、二三大夫等、各提壺酒、登高圓野聊述所心作歌三首／右一首、少納言大伴宿禰家持。

◇天平勝寶六年

從五位上 大伴家持

〔萬葉、卷廿 四二九八詞書〕六年正月四日、氏族人等賀集于少納言大伴宿禰家持之宅宴飲歌三首

〔萬葉、卷廿 四三〇四詞書／左註〕同月（三月）廿五日、左大臣橘卿宴于山田御母之宅歌一首／右一首、少納言大伴宿禰家持囑時花作。但未出之間、

大臣罷宴、而不舉誦耳。

◎天平勝寶年間の家持の官位は、全て『續紀』勝寶元年四月甲午朔条および同六年四月庚午条によつて補なつた。なお後者において家持は兵部少輔に任じているから、この時少納言を解かれたものである。

從五位下 秋篠王

從五位下 栗田人成

〔續紀〕四月庚午05。從五位下秋篠王。栗田朝臣人成並爲少納言。

◇天平勝寶七年

從五位下 厚見王

〔續紀〕十一月丁巳02。遣少納言從五位下厚見王。奉幣于伊勢大神宮。

◇天平勝寶八年

從五位上 石川名人

〔續紀〕十二月己酉30。勅遣……少納言從五位上石川朝臣名人於藥師寺。講梵網經。

◆天平寶字三年

從五位下 豐野出雲

〔續紀〕正月戊寅11。以從五位下豐野真人出雲爲少納言。

◇天平寶字四年

從五位下 大野廣立

〔續紀〕正月戊寅16。以從五位下大野朝臣廣立爲少納言。

◇天平寶字五年

從五位下 菅生王

〔續紀〕十月壬子朔。以從五位下菅生王爲少納言。

◇天平寶字六年

從五位下 紀 牛養

〔續紀〕正月戊子09。以信部大輔從五位下紀朝臣牛養爲兼少納言。

◇天平寶字七年

從五位下 大伴東人

〔續紀〕正月壬子09。以從五位下大伴宿禰東人……並爲少納言。

從五位下 藤原藏下麻呂

〔續紀〕正月壬子09。（從五位下）藤原朝臣藏下麻呂並爲少納言。

〔續紀、寶龜六年七月壬辰朔条〕參議大宰帥從三位

勳二等藤原朝臣藏下麻呂薨。……自內舍人。遷出

雲介。寶字七年。授從五位下。任少納言。八年之

亂。賊走近江。官軍追討。藏下麻呂將兵奄至。力

戰敗之。以功授從三位勳二等。歷近衛大將兼左京

大夫伊豫土佐等按察使。寶龜五年。自兵部卿遷大

宰帥。薨年四十二。

〔補任、天平寶字八年尻付〕天平寶字七年正月從五

位下。爲少納言。八年正月備前守。

從五位下 石上奧繼

〔續紀〕四月丁亥14。以從五位下石上朝臣奧繼爲少納言。

◇天平寶字八年

正五位下 山村王

〔續紀〕正月己未21。以正五位下山村王爲少納言。

〔續紀〕九月乙巳11。大師藤原惠美朝臣押勝逆謀頗

泄。高野天皇遣少納言山村王。取中宮院鈴印。

〔續紀、神護景雲元年十一月癸亥17条〕參議從三位

治部卿兼左兵衛督大和守山村王薨。……寶字八年。

任少納言。授正五位下。于時高野天皇遣山村王取

中宮院鈴印。大師押勝遣兵。邀而奪之。山村王密

告消息。遂果君命。天皇嘉之。授從三位。薨時年

四十六。

〔補任、天平寶字八年尻付〕〔寶字〕七年九月日從五

位上山村王授正五位下。八年正月爲少納言。（同、

註記）九月十一日任〔參議〕。叙從三位。九日任左

兵衛督。元正五位下少納言。

◆神護景雲元年（△印は員外少納言）

從五位下 巨勢苗麻呂

〔續紀〕三月己巳20。從五位下巨勢朝臣苗麻呂爲少納言。

從五位下 當麻王

〔續紀〕七月庚戌03。少納言從五位下當麻王爲兼信濃介。

從五位上 菅生王

〔續紀〕十二月乙酉09。從五位上菅生王爲少納言。

從五位下△石川清麻呂

〔續紀〕十二月乙酉09。從五位下石川朝臣清麻呂爲員外少納言。

◇神護景雲三年

從五位下 橘 綿裳

〔續紀〕五月丙子09。以從五位下橘朝臣綿裳爲少納言。

從五位下 當麻王

〔續紀〕六月乙巳09。少納言從五位下當麻王爲兼下野介。

從五位上△高賀茂諸雄

〔續紀〕十一月壬辰28。以從五位上高賀茂朝臣諸雄爲員外少納言。

◆寶龜元年

從五位下 石川眞守

〔續紀〕九月乙亥16。以從五位下石川朝臣眞守爲少納言。

從五位下 當麻王

〔續紀〕十月辛亥23。少納言從五位下當麻王爲兼尾張守。

從五位下△賀茂淨名

〔續紀〕八月丁巳28。以從五位下賀茂朝臣淨名爲員外少納言。

◇寶龜二年

正五位下△高賀茂諸雄

〔續紀〕七月丁未23。以正五位下高賀茂朝臣諸雄爲員外少納言。

◇寶龜三年

從五位上 菅生王

〔續紀〕二月丁卯16。以從五位上菅生王爲中務大輔。少納言信濃守如故。

從五位下 布勢清直

〔續紀〕十月壬子05。中務大輔從五位上兼少納言信濃守菅生王。坐奸小家內親王除名。內親王削屬籍。〔續紀〕四月庚午20。從五位下布勢朝臣清直爲少納言。

◇寶龜五年

從五位下 池田眞枚

〔續紀〕三月甲辰05。以從五位下池田朝臣眞枚爲少納言。

從五位下 安倍弟當

〔續紀〕九月庚子04。以從五位下安倍朝臣弟當爲少納言。

◇寶龜八年

從五位下 藤原大繼

〔續紀〕正月戊寅25。從五位下藤原朝臣大繼爲少納言。

從五位下△池田眞枚

〔續紀〕正月戊寅25。從五位下池田朝臣眞枚爲員外少納言。

◇寶龜十年

從五位下 清原王

〔續紀〕六月辛亥13。從五位下清原王。……並爲少納言。

從五位下 池田眞枚

〔續紀〕六月辛亥13。……從五位下池田朝臣眞枚。並爲少納言。

從五位下 篠鳴王

〔續紀〕九月甲申18。從五位下篠鳴王爲少納言。從五位下清原王爲越後守。

從五位下 川村王

〔續紀〕十一月甲午28。以從五位下川村王爲少納言。

◇寶龜十一年

從五位下 藤原眞友

〔續紀〕三月壬午17。從五位下藤原眞友爲少納言。〔補任、延曆十三年尻付〕寶龜十一年正月七日從五下(卅九)。三月壬午任少納言。天應二年壬正月甲子衛門佐。

◆天應元年

從五位上 石川淨麻呂

〔續紀〕五月癸未25。從五位上石川朝臣淨麻呂爲少納言。

◆延暦元年

從五位下 大中臣諸魚

〔續紀〕閏正月庚子17。以從五位下大中臣朝臣諸魚爲少納言。

從五位上 調使王

〔續紀〕五月丙申14。以從五位上調使王爲少納言。

◇延暦二年

從五位下 春階王

〔續紀〕二月壬申25。以從五位下春階王。……並爲少納言。

從五位下 藤原園人

〔續紀〕二月壬申25。以從五位下……藤原朝臣園人並爲少納言。

〔補任、延暦二十五年尻付〕延暦二二―少納言。

◇延暦三年

從五位上 大中臣諸魚

〔續紀〕四月壬寅02。從五位上大中臣朝臣諸魚爲兵部大輔。少納言如故。

◇延暦四年（▲印は權少納言）

正五位下 大中臣諸魚

〔續紀〕正月辛亥15。少納言正五位下大中臣朝臣諸魚爲兼山背守。

從五位上 小倉王

〔續紀〕正月癸亥27。以從五位上小倉王。……並爲少納言。

從五位上 百濟玄鏡

〔續紀〕正月癸亥27。以從五位上……百濟王玄鏡。並爲少納言。

從五位下 ▲藤原乙叡

〔補任、延暦十三年尻付〕（延暦）三年五月乙丑從五位下。七月壬午侍從。四年正月己亥權少納言。

◇延暦五年

從五位上 藤原乙叡

〔續紀〕六月丁卯09。以從五位上藤原朝臣乙叡。……並爲少納言。

從五位下 文室眞屋麻呂

〔補任、延暦十三年尻付〕（延暦）五年正月戊戌從五位上。六月丁卯轉少納言。六年三月丙午右衛士佐。〔續紀〕六月丁卯09。以……從五位下文室眞人眞屋麻呂。並爲少納言。

◇延暦六年

從五位上 佐伯老

〔續紀〕二月庚申05。近衛少將從五位上佐伯朝臣老爲兼相摸守。少納言如故。

從五位下 石浦王

〔續紀〕二月癸亥08。以從五位下石浦王爲少納言。

從五位下 藤原繩主

〔續紀〕三月丙午22。從五位下藤原朝臣繩主爲少納言。

〔續紀〕五月戊申25。少納言從五位下藤原朝臣繩主爲兼右衛士佐。

〔補任、延暦十七年尻付〕（延暦）六年二月庚申右衛士佐。三月丙午少納言（佐如故）。五月左衛士佐。

從五位下 紀 兄原

〔續紀〕九月丁卯17。以近衛少將從五位下紀朝臣兄原爲兼少納言。

◇延暦七年

從五位下 藤原繩主

〔續紀〕二月甲申06。少納言從五位下藤原朝臣繩主爲兼（備前）介。右衛士佐如故。

〔續紀〕七月庚午25。從五位下藤原朝臣繩主爲近衛

少將。少納言如故。

〔補任、延曆十七年尻付〕〔延曆〕七年二月甲申兼備前介〔佐少納言如故〕。七月庚午近衛少將〔少納言如故〕。九年七月兼式部少輔〔少將介如故〕。

從五位下 正月王

〔續紀〕七月庚午25。以從五位下正月王爲少納言。〔續紀、延曆十年七月己卯20條〕故少納言從五位下正月王男藤津王等言。亡父存日。作請姓之表。未及上聞。奄赴和途。其表備。臣正月。……伏望。蒙賜登美真人姓。……

◇延曆八年

從五位下 大中臣弟成

〔續紀〕三月戊午16。從五位下大中臣朝臣弟成爲少納言。

◇延曆九年

從五位下 紀 皆麻呂

〔續紀〕七月戊子24。從五位下紀朝臣皆麻呂爲少納言。

◇延曆十年

從五位下 秋篠安人

〔續紀〕三月辛巳21。以從五位下秋篠朝臣安人爲少納言。右兵衛督如故。

〔補任、延曆廿四年尻付〕〔延曆〕十年正月七日從五位下。二月甲辰遷大判事〔外記如故〕。同月〔續紀〕辛巳少納言〔佐如故〕。後兼備中守。

〔外記補任〕大外記從五位秋篠朝臣安人〔正月七日入内。二月兼大判事。三月遷少納言〕。

從五位下 藤原葛野麻呂

〔續紀〕七月癸亥04。以從五位下藤原朝臣葛野麻呂

爲少納言。

〔補任、延曆廿五年尻付〕〔延曆〕十七癸未任少納言。十一月甲子任右少辨。

◇延曆十三年

從五位下 秋篠安人

〔類史一四七〕八月癸丑13。……修國史。……少納言從五位下兼侍從守右兵衛佐行丹波介臣秋篠朝臣安人等。……

◇延曆十五年

從五位上 橘 安麻呂

〔後紀〕十月甲申27。從五位上橘朝臣安麻呂爲少納言。

◇延曆十六年

從五位下 多治比八千足

〔後紀〕二月辛未15。從五位下多治比真人八千足爲少納言。

◇延曆十八年

從五位下 登美藤津

〔後紀〕八月甲戌03。從五位下登美真人藤津爲少納言。

從五位下 橘 眞甥

〔後紀〕十一月戊申08。從五位下橘朝臣眞甥爲少納言。

◇延曆十九年

從五位下 稱城王

〔類史二五・三六〕七月甲子28。遣少納言從五位下稱城王等。以追尊號事。告于崇道天皇陵。

◇延曆二十年

從五位下 安倍兄雄

〔補任、延曆廿五年尻付〕延曆十九正丙午從五下。

同廿二丁酉少納言。同廿五丁酉中衛少將。

從五位下 多 入鹿

〔補任、大同四年尻付〕(延曆)廿年六月少納言。廿

一年兼近衛將監。廿五年四丁轉近衛少將。兼武藏
介。

◇延曆二十三年

從五位下 淨宗王

〔後紀〕二月甲寅09。從五位下淨宗王爲少納言。

◇延曆二十四年

從五位下 多 入鹿

〔後紀〕十一月戊子23。坂本親王於殿上冠。賜

……少納言從五位下多朝臣入鹿等衣被。

◇大同元年

從五位上 多治比八千足

〔後紀〕二月甲辰10。從五位上多治比真人八千足爲

少納言。

從五位下 藤原綱繼

〔後紀〕四月乙巳12。從五位下藤原朝臣綱繼爲少納

言。

〔補任〕(延曆廿五)四月十一日少納言。

從五位下 安倍鷹野

〔後紀〕四月甲寅21。從五位下安倍朝臣鷹野爲少納

言。衛門權佐如故。

◇大同三年

從五位下 小野眞野

〔後紀〕六月己卯28。從五位下小野朝臣眞野爲少納

言。

從五位上 多治比八千足

〔後紀〕七月己丑09。從五位上多治比真人八千足爲

少納言。

從五位下 安倍眞直

〔後紀〕九月甲申05。從五位下安倍朝臣眞直爲少納

言。右衛士佐相摸介如故。

◇大同四年

從五位下 安倍眞直

〔後紀〕二月己未13。從五位下安倍朝臣眞直爲左近

衛少將。侍從少納言如故。

◆弘仁元年

從五位下 文室弟直

〔後紀〕十月丙戌19。從五位下文室真人弟直爲少納

言。

◇弘仁三年

從五位下 宇治王

〔後紀〕正月辛未12。少納言從五位下宇治王爲兼遠

江守。

◇弘仁四年

從五位上 百濟忠宗

〔後紀〕正月甲子10。少納言從五位上百濟王忠宗爲

兼左兵衛佐。

從五位下 宇智王

〔後紀〕正月甲子10。少納言從五位下宇智王爲兼信

濃守。

◇弘仁八年

從五位下 橘 常主

〔補任、弘仁十三年尻付〕(弘仁)八正七從五下。

二月二少納言。九月廿九日右馬頭。

□□□□ 高階淨階

〔符宣抄、弘仁八年二月七日宣旨〕少納言高階真人

淨階奉。

◇弘仁十年

□□□□ 高階淨階

〔符宣抄、弘仁十年五月八日宣旨〕少納言高階真人淨階奉。

從五位上 滋野貞雄

兼兵部大輔。少納言如故。

〔三實、貞觀元年十二月廿二日癸卯條〕從四位上行攝津守滋野朝臣貞雄卒。……承和五年改權〔備前權介〕爲正。其年授從五位上。拜少納言。兼侍從。十二年出爲丹波守。加正五位下。

◇弘仁十四年

從五位下 高階石河

〔續後紀、承和九年五月壬戌29條〕從四位下淨階眞人之子也。弘仁十三年任宮内少丞。轉大丞。明年正月叙從五位下。除兵部少輔。俄遷少納言。父子相襲居斯職。以富聲音也。時論以爲稱唯之音。細而且高。猶勝於父。

◇承和六年

從五位下 藤原秋常

〔續後紀〕正月甲子11。以從五位下藤原朝臣秋常爲少納言。

◆天長元年

從五位上 繼野王

〔類史三〕四月乙酉06。御大極後殿。差使少納言從五位上繼野王。……奉遣御劔并幣帛于伊勢大神宮。

◇承和九年

從五位下 清瀧河根

〔續後紀〕七月丁未15。太上天皇崩于嵯峨院。……少納言從五位下清瀧朝臣河根率諸衛府警衛兵庫。

◇天長二年

從五位下 豐江王

〔三實、貞觀五年七月十六日丙午條〕前宮内卿正四位下豐江王卒。……弘仁十三年正月授從五位下。天長二年秋拜少納言。兼侍從。五年叙從五位上。

從五位下 藤原秋常

〔續後紀〕七月戊午26。少納言從五位下藤原朝臣秋常爲石見權守。

◆承和四年

從五位下 藤原嗣宗

〔續後紀、嘉祥二年十一月己卯29條〕天長九年正月叙從五位下。〔承和〕四年除散位頭。八月遷民部少輔。十月任少納言。六年補右中辨。

◇承和十年

從五位下 紀野長

〔續後紀〕正月辛丑12。以從五位下紀朝臣野長爲少納言。

從五位下 清瀧河根

〔續後紀〕十二月丙子22。分遣……少納言從五位下清瀧朝臣河根……於京及難波宅。搜求反具。

◇承和五年

正五位下 藤原嗣宗

〔續後紀〕十一月甲戌20。正五位下藤原朝臣嗣宗爲

◇承和十一年

從五位下 鎌倉王

〔續後紀〕七月辛卯10。從五位下鎌倉王爲少納言。

從五位下 登美直名

〔文實、仁壽三年六月己巳10条〕前豐後權守從五位下登美真人直名卒。……………〔承和〕十一年二月遷爲少納言。十四年正月出爲大宰少貳。

云々。

◇承和十二年

從五位上路 永名

〔續後紀〕二月甲辰27。從五位上路真人永名爲少納言。

從五位下 登美直名

〔續後紀、承和十三年九月乙丑26条〕法隆寺僧善愷。告少納言從五位下登美真人直名所犯之罪。〔文實、仁壽二年十二月癸未22条〕參議左大辨從三位小野朝臣篁薨。〔承和〕十二年春正月授從四位下。于時法隆寺僧善愷。告少納言登美真人直名。爲寺檀越枉法狀。

〔三實、貞觀五年五月癸亥朔条〕參議刑部卿正四位下兼行越前權守正躬王卒。……………〔承和〕十二年法隆寺僧善愷。告少納言兼侍從登美真人直名爲寺檀越枉法狀。

〔三實、貞觀八年九月廿二日甲子条〕是日。大納言伴宿禰善男。……………等五人。坐燒應天門應斬。詔降死一等。並處之遠流。……………嘗承和中。爲右少辨之時。法隆寺僧善愷。向官告少納言登美真人直名所犯之狀。

◇承和十三年
從五位下 登美直名

〔續後紀〕十一月壬子14。右辨官宣。法隆寺僧善愷。以違法訴狀。告少納言從五位下登美真人直名。并

受推官人等罪。

〔三實、貞觀四年八月十七日癸丑条〕是日。從五位下守大判事兼行明法博士讚岐朝臣永直卒。……………〔承和〕十三年法隆寺僧善愷向官。告檀越少納言登美真人直名有犯之狀。

◇承和十四年

從五位下 藤原春岡

〔續後紀〕二月丁丑11。從五位下藤原朝臣春岡爲少納言。

◆嘉祥二年

從五位下 藤原春岡

〔續後紀〕五月乙丑12。遣……………少納言從五位下藤原朝臣春岡。於鴻臚館。

從五位下 縣大養氏河

〔續後紀〕七月庚申09。從五位下縣大養宿禰氏河爲少納言。

◇嘉祥三年

從五位下 縣大養氏河

〔續後紀〕三月己亥21。少納言從五位下縣大養宿禰氏河監鈴印櫃。

從五位上 鎌藏王

〔文實〕九月乙酉11。遣少納言從五位上鎌藏王。……………向伊勢大神宮。依例奉幣。

◆仁壽二年

從五位上 鎌藏王

〔文實〕八月乙未朔。遣少納言從五位上鎌藏王。向伊勢大神宮。

◇仁壽三年

從五位下 紀 貞守

〔文實〕正月丁未16。從五位下紀朝臣貞守爲少納言。

從五位下 利見王

〔文實〕八月丙寅08。從五位下利見王爲少納言。

◆齊衡二年

從五位下 利見王

〔文實〕九月壬子06。遣少納言從五位下利見王。向八幡大菩薩宮。策命曰。……………

◆天安元年

從五位上 並山王

〔文實〕二月甲申16。從五位上並山王。……………爲少納言。

從五位下 藤原基經

〔文實〕二月甲申16。……………從五位下藤原朝臣基經等爲少納言。

〔文實〕二月辛卯23。從五位下藤原朝臣基經爲左衛門佐。少納言如故。

〔補任、貞觀六年尻付〕從五下……………。天安元三

一少納言。同月一(同二正十五)兼左兵衛佐(少

納言侍從如故)。

〔文實〕九月辛未27。從五位上紀朝臣有經爲少納

言。伊勢權守如故。

從五位上 紀 有經

◇天安二年

從五位下 正岑王

〔文實〕二月戊辰05。從五位下正岑王爲少納言。

從五位上 橘 清蔭

〔三實〕八月廿七日乙卯。文德天皇崩於冷然院新成殿。……………奉天子神璽寶劍節符鈴印等於皇太子直曹。

……………從五位上行少納言兼侍從橘朝臣清蔭。……………

並主鈴等相從。

從五位上 藤原基經

〔三實〕八月廿七日乙卯。文德天皇崩於冷然院新成殿。……………奉天子神璽寶劍節符鈴印等於皇太子直曹。

……………左衛門佐從五位上兼行少納言侍從藤原朝臣基經。……………並主鈴等相從。

〔三實〕九月十四日壬申。左衛門佐從五位上兼行少

納言侍從藤原朝臣基經爲左近衛權少將。少納言侍

從如故。

〔三實〕十一月廿五日壬午。從五位上守左近衛權少

將兼行少納言侍從藤原朝臣基經爲播磨介。餘官如

故。

〔補任、貞觀六年尻付〕(天安二九十四左少將(少

納言如元)。十月藏人頭。十一月廿五日兼播磨介(少

納言少將如元)。

〔三實〕十月廿六日癸丑。從五位下行越前介良岑朝

臣經世爲少納言。

從五位下 良岑經世

◆貞觀元年

從五位下 良岑經世

〔三實〕七月十四日丁卯。少納言兼侍從從五位下良岑朝臣經世爲杜本社使。

◇貞觀二年

正五位下 藤原基經

〔三實〕十一月十六日壬辰。從五位上守左近衛權少將兼行少納言侍從播磨介藤原朝臣基經正五位下。

從五位上 良岑經世

〔三實〕十一月十六日壬辰。少納言兼侍從良岑朝臣經世。並從五位上。

◇貞觀三年

從四位下 藤原基經

〔三實〕三月八日壬午。授左近衛權少將正五位下兼行少納言侍從播磨介藤原朝臣基經從四位下。

從五位上 良岑經世

〔東大寺要錄〕貞觀三年三月十三日丁亥。……………少

納言良岑朝臣經世。密奏請印。……………

從五位上 藤原諸葛

〔三實〕四月九日癸丑。從五位上行中務少輔藤原朝

臣諸葛爲少納言。

〔補任、元慶三年尻付〕貞觀二十一年廿從五上。同三

二十廿五中務少輔。四月九日少納言。

從五位下 藤原直道

〔三實〕二月廿五日己巳。是日。以周防守從五位下

藤原朝臣直道爲少納言。

〔東大寺要錄〕貞觀三年三月十二日丙戌。……………是

日右大臣就右近衛陣頭座。召內記令書從五位下位

記一卷。即召少納言藤原朝臣直道。……………

◇貞觀四年

從五位上 藤原直道

〔三實〕正月七日丙子。少納言兼侍從藤原朝臣直

道。……………並從五位上。

◇貞觀五年

從五位上 藤原直道

〔三實〕二月十日癸卯。從五位上少納言兼侍從藤原

朝臣直道爲備前守。

從五位下 久須繼王

〔三實〕二月十日癸卯。從五位下久須繼王爲少納言。

◇貞觀六年

從五位上 良岑經世

〔三實〕正月十四日辛丑。延曆寺座主傳燈大法師位

圓仁卒。……………勅遣少納言良岑朝臣經世。贈法印

大和尚位。

〔三實〕二月十六日癸酉。遣從五位上行少納言兼侍

從良岑朝臣經世。向延曆寺。以傳燈大法師位安慧。

爲彼寺座主。

〔符宣抄、貞觀六年六月四日宣旨〕少納言良岑朝臣

經世。

〔三實〕二月十六日癸酉。是日。勅遣……………從五位

上行少納言兼侍從藤原朝臣諸葛等。依式率所司。

於西寺綱所。任僧正已下。

◇貞觀七年

從五位上 良岑經世

〔三實〕九月五日癸未。勅以藥師寺僧壹演。爲權僧

正。遣……………從五位上行少納言兼侍從良岑朝臣經世。

率所司。向西寺綱所宣制。

◇貞觀八年

正五位下 藤原諸葛

〔三實〕三月廿三日己亥。授從五位上行少納言兼侍

從藤原朝臣諸葛正五位下。

從五位上 良岑經世

〔三實〕八月十八日庚寅。分遣使者於諸山陵。告應

天門火也。……………少納言從五位上良岑朝臣經世等

……………

◇貞觀九年

從五位上 久須繼王

〔三實〕正月七日戊申。少納言兼侍從久須繼王。並

從五位上。

從五位上 良岑經世

〔三實〕正月十二日癸丑。從五位上少納言兼侍從良

岑朝臣經世爲陸奥守。

從五位下 和氣彝範

〔三實〕正月十二日癸丑。以從五位下行木工權助和

氣朝臣彝範。爲少納言。

◇貞觀十年

從五位下 和氣彝範

〔三實〕六月三日乙丑。以傳燈大法師位圓珍。爲延曆寺座主。使少納言和氣朝臣彝範。

從五位上 久須繼王

〔三實〕九月十一日辛丑。遣從五位上行少納言兼侍從久須繼王。……向伊勢大神宮奉幣。

◇貞觀十一年

從五位上 和氣彝範

〔三實〕正月七日乙丑。少納言兼侍從和氣朝臣彝範。……並從五位上。

〔三實〕正月廿七日乙酉。任僧綱。……從五位上行少納言兼侍從和氣朝臣彝範。……率所司。向西寺綱所宣制。

◇貞觀十二年

從五位上 和氣彝範

〔三實〕七月二日壬子。以從五位上行少納言兼侍從和氣朝臣彝範。爲檢河內國水害堤使。判官一人。主典二人。

從五位上 正岑王

〔三實〕十一月廿八日丙子。以從五位上行散位頭正岑王爲少納言。

◇貞觀十四年 (▼印は判少納言)

從五位上 正岑王

〔符宣抄、貞觀十四年二月十五日宣旨〕少納言正岑王。

從五位上 和氣彝範

〔符宣抄、貞觀十四年二月十五日宣旨〕少納言和氣朝臣彝範。
〔三實〕三月廿三日癸巳。從五位上行少納言兼侍從和氣朝臣彝範爲石清水社使。

□□□□ 藤原高範

〔三實〕五月廿五日甲午。……從五位上行少納言兼侍從和氣朝臣彝範。……付太政官牒。
〔符宣抄、貞觀十四年二月十五日宣旨〕少納言藤原高範。

正五位下▼藤原良近

〔三實〕二月十五日乙卯。廼者少納言正岑王依病不上。和氣朝臣彝範染穢請假。藤原朝臣高範父憂去職。勅以右中辨藤原朝臣良近。行少納言事。爲判少納言。

◇貞觀十六年

□□□□ 橘 茂生

〔符宣抄、貞觀十四年二月十五日宣旨〕右中辨正五位下藤原朝臣良近。爲判少納言者。……少納言正岑王依病不上。和氣朝臣彝範染穢請假。藤原朝臣高範遭喪。仍擇比司。權置此官。

◇貞觀十八年

從五位上 和氣彝範

〔三實〕二月十日庚子。少納言兼侍從橘朝臣茂生。先是闕荷前。解侍從職。是日有勅。免罪復本。

□□□□ 橘 茂生

〔符宣抄、貞觀十八年十月廿日宣旨〕少納言從五位上和氣朝臣彝範。
〔三實〕五月八日甲申。遣使柏原山陵。告以灾火。……少納言橘朝臣茂生……。

◆元慶元年

正五位下 和氣彝範

〔三實〕正月三日乙亥。天皇即位於豐樂院。……少納言兼侍從和氣朝臣彝範。……並正五位下。

◇元慶二年

從五位上 橘 茂生

〔三實〕八月十四日丁丑。從五位上行少納言兼侍從橘朝臣茂生爲上野介。

從五位下 橘 春行

〔三實〕八月十四日丁丑。以紀伊守從五位下橘朝臣春行爲少納言。

◇元慶三年

從五位上 藤原清生

〔三實〕正月七日丁酉。少納言兼侍從藤原朝臣清生。……並從五位上。

從五位下 橘 春行

〔三實〕十月廿三日己卯。遣……少納言兼侍從從五位下橘朝臣春行於西寺綱所。

正五位下 滋野善根

〔三實〕十一月廿五日庚辰。少納言兼侍從滋野朝臣善根。……並正五位下。

◇元慶六年

從五位上 橘 春行

〔三實〕正月七日庚戌。少納言兼侍從橘朝臣春行。……並從五位上。

◇元慶七年

從四位上 滋野善根

〔三實〕正月七日甲戌。少納言兼侍從滋野朝臣善根。並從四位上。

從五位上 藤原諸房

〔三實〕五月十二日丁丑。渤海客徒掃蕃。是日遣……從五位上行少納言兼侍從藤原朝臣諸房。……付太政官牒。

從五位上 橘 春行

〔三實〕十月七日庚子。是日。……從五位上行少納言兼侍從橘朝臣春行。……率治部玄蕃官人。向西寺綱所任之。

◇元慶八年

從五位上 藤原諸房

〔三實〕二月四日乙未。……從五位上行少納言兼侍從藤原朝臣諸房。……留守焉。

◆仁和元年

從五位上 橘 春行

〔三實〕二月廿一日丁未。天皇御紫宸殿視事。大臣以下。參議以上並侍。從五位上行少納言兼侍從橘朝臣春行就版奏請。踏印官符。

從五位下 大江公幹

〔三實〕四月乙卯朔。天皇御紫宸殿視事。六衛府少將佐等。奏當月番上近衛門部兵衛等交名簡。少納言從五位下大江朝臣公幹奏請印。……

◇仁和三年

從五位上 大江公幹

〔三實〕正月七日辛巳。少納言兼侍從大江朝臣公幹。……並從五位上。

從五位上 橘 春行

〔三實〕二月十七日辛酉。從五位上行少納言兼侍從橘朝臣春行爲美作權助。本官如故。

從五位上 藤原諸房

〔三實〕六月十三日乙卯。從五位上行少納言兼侍從藤原朝臣諸房爲信濃守。

從五位下 令扶王

〔三實〕六月十三日乙卯。以從五位下行內膳正令扶王爲少納言。